

授業科目(ナンバリング)	ツアープランニング (CB219) (実践的教育科目)			担当教員	竹田 文雄 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
2010 年代中盤頃から、旅行業（旅行事業）をとりまく社会・市場・環境には急速な変化が見られ始め、従来型パッケージツアーはすべて DP にシフトすると予見されていたが、COVID-19 が収束しつつあるいま、旅行業はさらなる変化の時期を迎えることとなった。需要が回復した国内旅行では従来型パッケージツアーが復活し、海外旅行も 2025 年には需要が戻ると予測されている。本講義では、さらなる変化の時期を迎える従来型パッケージツアーの生命線とも言える「周遊型旅程の構築」、すなわちツアープランニングの手法を学ぶことによって、学生の「考える力」を伸ばし「組み立てる感覚」を醸成していく。							②⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアープランニングの各実務の概要を認識、理解して説明できる。 ・いつ、なにを、どのセグメントに、どのような形で、どのような価格でツアー商品を造成するのか？ を考察できるようになる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・授業内試験 ・授業内小課題 	20% 30%	
コミュニケーション力	学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践ができる。				・授業参画度	20%	
協働・課題解決力	自分自身のアイデアをどのように具現化できるか？ 旅行商品素材の魅力をどのように切り出して商品化すれば、お客さまに訴求できるのか？ について意見を発出できるようになる。				・授業内試験	30%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業内試験 6 0 点 (授業の理解度。期末までに提出するツアープランの完成度。) 授業内小課題 2 0 点 (授業の理解度及び課題解決力の達成度。ポートフォリオを使用して適宜実施。) 授業参画度 2 0 点 (授業課題への取組み姿勢。質疑等の有無とその回数。) 諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。							
授業の概要							
担当教員の旅行業実務経験（海外専任ツアーコンダクター・海外商品企画事業・国内商品企画事業・海外現地法人勤務《サイパン・ホノルル・ローマ・ロスアンゼルス》）と知見を踏まえての、旅行実務をトレースする授業。ツアープランニング（旅行商品の企画・造成）に必要な基礎知識と、旅行商品が創出されるプロセスについて、海外旅行商品を例として実務の段取りを踏まえた講義の形式とする。履修学生自身の卒業旅行のプランニング完成を到達目標と設定し、その完成度を期末評価の対象とする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、1 8 0 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に定めない。 参考書：授業中に適宜紹介。 指定図書：『旅の賢人たちがつくったヨーロッパ旅行最強ナビ』 山田静 & 久保田由希編 辰巳出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
COVID-19 の発生収束以降、旅行業をとりまく社会・市場（マーケット）・環境が劇的に変化する中で、ツアープランニングがお客さまに「夢」をお届けする仕事（商売）である旨を理解してもらえることに期待する。 なお上記の通り、ツアープランニング業務の各プロセス、施設素材・観光素材の選択手法、販路の差異・特性・今後の変遷など、旅行商品の造成実務に特化した授業内容である為、旅行会社の実務に関心を持つ学生の受講を歓迎する。「欠席・遅刻・私語・出席登録後の退出」の無い授業への参画を期待する。また他の学生に迷惑をかけないように留意しながら受講すること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習 ・予習は書き表すこと。
1	旅行商品の組成とプランニングの役割	授業の進め方のガイダンス。 ツアープランナーに求められるもの。	予：シラバス読込み。 復：旅行プランニングの 基本の再確認。
2	ツアープランニングの基礎 知識（1）	デスティネーションの選択と組み合わせについて。	予：目的地を選択する 要素は何かを考える。 復：選択要素の再確認。
3	ツアープランニングの基礎 知識（2）	デスティネーションと素材との組み合わせについて。	予：人気の出そうな旅行 を考えて書き出す。 復：商品企画要点再確認。
4	ツアープランニング実務 （1）	素材選定と料金設定の調整について。	予：値頃感とは何かを 考えて書き出す。 復：値付け要領の再確認。
5	ツアープランニング実務 （2）	旅行素材の原価について。	予：地上費・原価とは 何かを考える。 復：旅行素材の仕組みの 再確認。
6	ツアープランニング実務 （3）	旅行代金の設定手法について。	予：パンフレット読込み。 復：コスト管理の重要性 を再確認。
7	旅行商品の構成要素（1）	旅行商品の素材（ホテル・運送機関など）の概要について。	予：旅行素材には何が あるかを書き出す。 復：素材定義の再確認。
8	旅行商品の構成要素（2）	旅行商品の素材（ホテル・運送機関など）の概要について。 （ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。）	予：旅行素材には何が あるかを書き出す。 復：素材定義の再確認。
9	旅行商品の構成要素（3）	ツアーコンダクター同行ツアーとノンエスコートツアーの違いについて。	予：ツアーコンダクター の役割を考えてくる。 復：役割の再確認。
10	旅行商品の構成要素（4）	旅行商品の素材（観光・イベント）と関わる人（添乗員・ガイド）について。 ※ツアープランの作成手法のガイダンス実施。	予：旅行素材には何が あるかを書き出す。 復：素材定義の再確認。
11	団体旅行商品のツアープラン ニング実務	受注型企画旅行商品（団体旅行商品）のプランニング 実務、パッケージ商品との違いについて学ぶ。	予：団体旅行の特徴を 考えて書き出す。 復：パッケージ商品との 差異の再確認。
12	旅行商品の販売について	旅行代理店による販売とその他の販売方法について。 WEBによる旅行商品販売の方法、WEB専売商品/ダイナ ミックパッケージ（DP）商品の特性とプランニングに ついて。	予：販売形態について考え てくる。 復：WEB販売の特性の 再確認。
13	ツアープランニング実践 （1）	ツアープランの題目申請と概要の考察について。	予：ツアープランの概要 をイメージする。 復：ツアープランの題目 を確定する。
14	ツアープランニング実践 （2）	ツアープランニングを実践する。	予：事前配布資料の確認。 復：作成資料のレビュー。
15	総復習 授業内試験	総復習。 これまでの学修内容の習得度、理解度に関して試験を 行う。	予：14週までの授業全体 のレビュー。